

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャバテル 代表取締役 佐々木宏至

今回のテーマ「市場分析と未来に関して」を書く前に、表一に大奮発して広告を出したので、掘り下げてご説明をさせていただきたい。Docokame@VSSビデオ・サーベイランス・ソリューションは日本国内ではなく、日本に参入している海外製VMSにもない、新しいと言うか独自の視点から設計された監視カメラソフトウェアである。

- 1) GPUアクセラレーションによる跳躍的なビデオ・パフォーマンス…intel QVS, Nvidia CUDA, RADEON GPUをサポートすることで、従来のワークステーション数台分のパワーを発揮している。
- 2) オープン・ソース・ライセンスGPL/LGPLによる設計…特定の企業のプログラム・コードに依存しないことが、ユニークで先進的なファンクションを提供することができる。
- 3) Windows Linux Mac OS Androidの各OSをサポート…これもオープンソースの賜物である。例えばサーバをLinuxにしてクライアントはWindowsやMacでアクセスが可能だ。
- 4) モジュラー・ビルト・デザイン・テクノロジー…ブロックの玩具を繋ぎ合わせるように機能ブロックを連結していく。



- 5) インテリジェント・モーション・ディテクタ…従来の監視カメラ管理ソフトウェアのはほとんどはカメラ本体のモーション・ディテクタ機能を前提にしている。どこカメ@VSSは画像解析を応用した高精度な動体検知をサーバ自身で実行する。カメラ性能に依存しないため、市販で五千円台のWi-Fiネットワークカメラが高性能なモーション・センサとして活用できる。誤報の少ないモーション検知はセキュリティの重要な機能だ。どこカメ@VSSでは動体が逆に静止してしまうこと(不動体)も

検知が可能である。

- 6) USBカメラを含む広範囲なカメラサポートと自動登録…ほとんどの市販ネットワークカメラはどこカメ@VSSで自動認識し登録する。また、ネットワークカメラだけでなくUSBカメラ、各種キャプチャ・ボード(HD-SDI、HDMI)も自動認識して登録する能力を提供する。大半のノートパソコンについているカメラも直ぐに認識して、監視カメラとして管理する。操作画面もそのまま映像として管理する。セキュリティ領域が一気に拡張していく。
- 7) ビジネス…ミッションクリティカルに耐えるインターフェースや各種外部器(センサ/POS/ERP)、制御機器などとの連携、ビジネスツールや基幹業務システムとの連携。RESTfulを基本装備して、現在も拡張中。詳細は是非ここにアクセスしていただきたい。 <http://www.docokame.com/>どこカメ-vss/

「市場分析と未来に関して」

短期的といつても2020年に向けての国内市場だが、大規模案件が相当数控えている。市場の半分以上はGenetec社、

Milestone社、ExacqVision社が確保すると確信している。その最大の根拠は、家電系、重電系、ITネットワーク系のSIによるVMSが確実に成長している。アナログの延長線上でやっているCCTV系は見向きもされない時が来るのは時間の問題だろう。

もちろん、これは大規模システムに限っての話だ。単に「見る、撮る」のレベルではビジネスにならず、ソリューションのノウハウが重要視される。

小規模から中規模を16~64カメラとするなら、ここが最も激戦分野であり、生き残る手法は一つに非ず、様々ではある。発展途上国において凄まじい勢いでHD-TVI/CVIが成長しているようだ。日本では大手数社がHD-SDIはやっているが、HD-TVI/CVIにはほとんど手を出していない。一言で表現するなら、IPネットワーク以外の方式ではソリューションなどほとん

ど実現できない、「見る、撮る」のレベルだと気がつくべきだと私は断言したい。

超小規模とホームセキュリティの領域は1カメラ～16カメラと定義した。日本でのボリューム・ゾーンであり、海外でも同様だ。徹底して「見る、撮る」という利用が過半数以上を占めており、この分野ではDVR/NVRが圧倒的だろう。楽天ショップを見ていると、4カメラとケーブル、DVR 500GBセットで39,800円とあり、思わず「ほんまかいな」と言ってしまうが、屋内用ならこのあたりが裾野のようだ。

ホームセキュリティについては、日本では今ひとつ盛り上がっているように見えない。カメラは重要なアイテムだが、実はホームセキュリティは本格的なセキュリティシステム以上にテクノロジーが重要だ。これを支える技術がZ-WAVEだ、読者諸氏でZ-WAVEといわれて直ぐにピンと来た人はどれだけいるのだろう。Z-WAVEは無線通信技術の一つで、速度は遅いが高信頼性のパケット通信技術として開発された。日本では920MHz帯が解放されている。つまり、ワイヤレスで家庭内のあらゆる場所や外回りにセンサを配置するための技術なのだ。センサとカメラそしてスマホがイベント・アクションによるアラーム管理と一体になったソリューションが、ホームセキュリティの肝となる。

大規模の総括

ここまで来るので、15年以上の歳月を費やしたが、大規模案件ではほとんどがIPネットワークカメラで海外VMSが今後10年で大きく成長する。国内メーカーは市場を失わないようするために、海外メーカーとの関係を強化していくだろう。国内VMS企業の数社は、この領域ではほとんど成長が見込めない、理由は簡単で、アーキテクチャが古すぎるか貧弱だからだ。さらに開発リソースがあり得ないほどに小さい。そして最も致命的なことは、メジャーなサードパーティの各種ソリューション(画像解析メタデータ、アクセス・コントロール)のプラグインを持っていないことだ。ONVIFにも未だ対応していない。

小～中規模の総括

セキュリティをロジックとして捉えて設計するなら、選択肢はIPネットワークカメラとVMSの組み合わせしかあり得ない。この割合が増加すれば大規模と全く同じ状況になる。しかし、簡単にはそうはならないだろう。よって混沌とした状況はまだまだ続く。

超小規模、ホームセキュリティの領域

ジャバテルとしては、この領域に最も注力していくうと思っている。まさしく、どこカメ@VSSがキーラーAPIだと思っている。その一例だがドングルPCをご存じたろうか



ドングルPCを自宅の液晶テレビのHDMIに挿入するだけ。カメラはIODATA社のWi-Fi対応メガピクセル・カメラ、市販で六千円程度。Wi-Fiルータを使用してインターネットに接続。カメラは4～9台程度まで拡張可能。どこカメ@VSSがインテリジェント・モーション検知やアラーム通知機能を提供し、外出中はスマートフォンにアラームがプッシュされ、状況確認も簡単だ。これに、Z-WAVEとセンサが加われば理想的なセキュリティ・ソリューションが出来上がる。つまり、コンビニや各種ショップでの仕様要求や利用に耐え、強力なアラーム機能も低コストに構築が可能になる。

次回は公共施設におけるセキュリティのあり方について書く予定です。少し早いですが、皆様よいお年を。

A&S



株式会社ジャバテル

www.javatel.co.jp

専門サイト nvr.jp ipcam.tv

Javate
Video Intelligence

本社 〒530-0041 大阪市北区天神橋 2- 北 1-21 八千代ビル東館 3F

TEL 06-6354-0100 FAX 06-6136-1155

支店 〒130-0011 東京都墨田区石原 1-41-4 TK ビル 3F

TEL 03-6658-8726 FAX 03-5637-7834